

授業科目 薬理学

【担当教員名】 高中 紘一郎		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		○			
【概要・一般目標：GI0】 薬物治療に関する基本的な知識及び各薬物の薬理作用・副作用などを理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬とは何かを説明できる。</li> <li>2. 薬物と生体の相互作用を説明できる。</li> <li>3. 薬物の副作用を説明できる。</li> <li>4. 薬効評価とその問題点を説明できる。</li> <li>5. 生体情報伝達機構を説明できる。</li> <li>6. 末梢神経系、中枢神経系、腎、循環器系に作用する薬物を説明できる。</li> <li>7. 化学療法薬について説明できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	薬物とは何か、薬物に関する法令			1	講義
2	薬理作用、作用機序の基本			2,3	講義
3	基本的な薬物の吸収、分布、代謝、排泄			2,3	講義
4	薬物に関する代謝酵素、耐性、依存			2,3	講義
5	薬物の副作用			3	講義
6	薬効効果			4	講義
7	ホルモン、シナプスと化学伝達物質の関係			5	講義
8	受容体と細胞内情報伝達			5	講義
9	末梢性筋弛緩薬、局所麻酔の作用			6	講義
10	自律神経に作用する薬物			6	講義
11	麻酔薬、鎮痛薬			6	講義
12	利尿薬			6	講義
13	抗不整脈薬、抗高血圧薬、抗狭心症薬			6	講義
14	化学療法と抗生物質			7	講義
15	まとめ			1-7	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学第2版	中嶋敏勝	医歯薬出版	2012・2,800円＋税
参考書					
その他の資料		配布			
【評価方法】 定期試験（100％）にて評価する。			【履修上の留意点】		